



21 荒川嶺雲

《義経高松ノ凶額》

一面

明治二十八年(二八九五)

木彫

総一六八・〇×九六・五

島根県 第二部第十九類

源義経が大鎧に騎乗の姿で、右手で手綱を引いて波打ち際で馬をとどめ、左手の大弓を後方にむけて後続の軍勢への制止を命じた姿が浮き彫りで表される。一ノ谷の敗戦後、屋島に拠る平家に義経が攻撃をかける屋島の戦いの一場面である。明治二十八年の第四回内国博出品作で、海辺右下隅に「明治乙未春日刻 荒川嶺雲」と刻

まれる。明治天皇が同内国博会場へ行幸された折に買い上げられたと伝えられる。

作者の荒川嶺雲(二八六八〜一九四二)は島根県松江の生まれで、本名を茂一郎という。義伯の荒川亀斎のもとで彫刻を学び、明治二十四年に上京して高村光雲の門に入って頭角を表した。日本美術協会美術展覧会への出品を続けるとともに、一九〇〇年パリ万博では《木彫置物》で銅牌を受けた。明治三十三年には妻の故郷である島根県簸川郡に移り、以降はここで製作する。明治三十一年からは一刀彫を始め、明治四十年に皇太子であった大正天皇が山陰に行啓された際には、御前で一刀彫を行っている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections